

◆経済倶楽部講演会第4006回（11月30日）

EUの現状と未来

—さらなる統合で危機克服へ—

立教大学経済学部特任教授

福島清彦

- * 国情の違いあれど財政統合の方向
- * フランスとドイツの同盟が支え
- * 「三つのノー」の態度変えぬイギリス
- * 改革の継続にかかるイタリアの将来
- * やがて変わるドイツの共同債反対
- * 6バックで財政規律ほかを監視
- * アメリカのポルカー・ルールに期待
- * 基軸に共同市場と社会的市場経済
- * 「ブレジデント」が5人もいる
- * 強弱あっても加盟30カ国超へ



浅野 開会いたします。（拍手）久しぶりに今日はEUの話ということで、EUも先がなかなか見えない状況ですけれども、日本とEUのEPA交渉が始まるということが、今日の朝刊に載っていますから、悪くないタイミングかと思っています。

ヨーロッパというと、経済倶楽部では福島さんにお願している回数がいちばん多いと思うのですが、今日もまた、ちょっと間はあきましてけれども、おいでいただきました。ヨーロッパには駐在でもおられたし、この間も行ってこられたということで、現地のいろんな生々しい話も併せて伺いたいと思います。できるだけたくさんエピソードなど盛り込んで、ヨーロッパのホンネの話を話してくださいとお願ひしてあ

りますから、今日はたぶん、あまり眠くならないのではないかと期待しています。（笑）では福島さん、よろしくお願ひします。（拍手）

福島 ご紹介いただきました福島です。ヨーロッパについて、本を何冊か書いたり、また、しょっちゅう出張したりしています。今、浅野さんからお話がありましたけれども、先週金曜日、ちょうど1週間前、ヨーロッパアン・バンキング・コンGRESというユーロの将来を考える大きいシンポジウムがありました、それを聞きに行ってきました。

欧州中央銀行の総裁やドイツの財務大臣、あるいはコメルツバンクやドイチェバンクという現地の大手銀行の頭取や会長がいろいろな話をしており、それで少し情報をリニューアルして